

令和3年度実施施策に係る政策評価書

(農林水産省3-⑱)

政策分野名 【施策名】	森林の有する多面的機能の発揮						
政策の概要 【施策の概要】	適切な森林施業の確保、面的なまとまりをもった森林管理、再造林の推進、野生鳥獣による被害への対策の推進、適切な間伐等の推進、路網整備の推進、複層林化と天然生林の保全管理等の推進、カーボンニュートラル実現への貢献、国土の保全等の推進、新たな山村価値の創造、国民参加の森林づくり等の推進、国際的な協調及び貢献等						
政策の予算額・執行額等 【施策の予算額・執行額等】 (※)	区分		元年度	2年度	3年度	4年度	
	予算の 状況 (百万 円)	当初予算(a)	199,955 <125,067> の内数	192,584 <126,219> の内数	163,082 <112,245> の内数	163,739 <108,010> の内数	
		補正予算(b)	20,515 <40,130> の内数	72,553 <36,885> の内数	42,898 <47,892> の内数	-	
		繰越し等(c)	△19,749 <△5,019> の内数	△46,038 <△260> の内数			
		合計(a+b+c)	200,721 <160,178> の内数	219,099 <162,844> の内数			
	執行額(百万円)		196,217 <155,099> の内数	211,264 <154,987> の内数			
	政策に関する内閣の 重要政策 【施策に関する内閣の 重要政策】 (施政方針演説等のうち主なもの)						
・森林・林業基本計画(令和3年6月15日閣議決定) 第3の1 ・全国森林計画(令和3年6月15日閣議決定) Ⅲの2 ・森林整備保全事業計画(令和元年5月28日閣議決定) 第2 ・成長戦略2019(令和元年6月21日閣議決定) Ⅲの7 ・農林水産省地球温暖化対策計画(平成29年3月14日決定、令和3年10月27日改定)							

※1 一般会計、特別会計を問わず政策ごとの予算等の合計額を記載している。
※2 複数政策に関連する予算については、<>外書きについて記載している。
※3 執行額については、政策評価の対象とはしていないが特定の政策に位置付けられるものについても計上している。

施策(1)	適切な森林施業の確保										
目標①【達成すべき目標】	適正な伐採と更新の確保										
測定指標	ア 齢級(注1)別面積の分散		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		年度	29年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	5年度		
		実績値		-							
		達成度合 い		-	(:)	(:)	(:)	(:)			
	年度ごとの目標値		0%	-	-	26%	P	P	26%	-	S↑-差
把握の方法	出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の8月 算出方法:5年に1度の森林資源現況調査に基づき把握(次回の実績把握は令和5年度)										
達成度合いの 判定方法	達成度合い(%)=(当該基準年度分散-当該年度分散(実績(見込)値)／(当該基準年度分散-当該年度分散(目標値))×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考											

施策(2)	面的なまとまりをもった森林管理										
目標①【達成すべき目標】	森林の経営管理の集積等										
測定指標	ア 私有人工林における集積・集約化の目標(私有人工林の5割)に対する達成割合		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類
		年度	27年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	10年度		
		実績値		82% (暫定値)							
		達成度合い		(A: 130%)	(:)	(:)	(:)	(:)			
年度ごとの目標値			71%	79%	81%	84%	86%	89%	100%	A	S↑－差
把握の方法	出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度3月頃(暫定値は調査年度の翌年度8月頃に把握予定) 算出方法:都道府県からの実績報告により把握。										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=(当該年度実績(見込)値－基準値)／(当該年度目標値－基準値)×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満 ※達成度合いは、当該年度実績値及び基準値について、小数点第1位の値(小数点第2位を切り捨て)を用いて算出 (81.8-70.9)／(79.3-70.9)×100=130%										
備考											
目標②【達成すべき目標】	森林関連情報を森林クラウド(注2)に集積し、共有と高度利用を推進										
測定指標	ア 森林関連情報の整備・提供に係る指標(令和4年度に設定)		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類
		年度	P年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	P年度		
		実績値		-							
		達成度合い		-	(:)	(:)	(:)	(:)			
年度ごとの目標値			P	-	P	P	P	P	P	-	P
把握の方法	出典:- 作成時期:- 算出方法:-										
達成度合いの判定方法	-										
備考											

施策(3)		再造林の推進									
目標①【達成すべき目標】		成長に優れたエリートツリー(注3)等の種苗の生産体制を整備									
測定指標	ア 林業用苗木のうち、エリートツリー等の苗木の本数		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類
		年度	元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	12年度		
		実績値		304万本 (令和2年度)							
	達成度合い		(A: 105%)	(:)	(:)	(:)	(:)				
年度ごとの目標値			283万本	303万本 (令和2年度)	359万本	401万本	454万本	518万本	3,000万本	A	S↑－差
把握の方法		出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度3月頃(暫定値は調査年度の翌年度12月頃把握予定) 算出方法:都道府県からの実績報告により把握。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値を用いて評価を実施。									
達成度合いの判定方法		達成度合い(%)=(当該年度実績(見込)値－基準値)／(当該年度目標値－基準値)×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満									
備考		一部の県からの令和元年度実績報告に誤計上があったことが判明したため、基準値(令和元年度実績値)を修正した。									
目標②【達成すべき目標】		造林適地を抽出する技術の普及									
測定指標	ア 造林適地を抽出する技術の普及に係る指標 (令和5年度に設定)		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類
		年度	P年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	P年度		
		実績値		-							
	達成度合い		-	(:)	(:)	(:)	(:)				
年度ごとの目標値			P	-	P	P	P	P	P	-	P
把握の方法		出典:- 作成時期:- 算出方法:-									
達成度合いの判定方法		-									
備考											

目標③【達成すべき目標】		再生林の確実な実施、省力かつ低コストの造林体系の確立										
測定指標	ア 令和3年度以降に人工造林を実施した面積		基準値	実績値・達成度合い						目標値	達成	指標－ 計算分類
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	12年度			
		実績値		3.3万ha (暫定値)								
	達成度合い		(A: 110%)	(:)	(:)	(:)	(:)					
	年度ごとの目標値		0万ha	3万ha	8万ha	13万ha	19万ha	26万ha	70万ha			
把握の方法		出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度12月頃(暫定値は調査年度の翌年度7月頃把握予定) 算出方法:都道府県等からの実績報告により把握										
達成度合いの判定方法		達成度合い(%)=(当該年度実績(見込)値－基準値)／(当該年度目標値－基準値)×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考												
測定指標	イ 人工造林面積のうち、造林の省力化や低コスト化を行った面積の割合		基準値	実績値・達成度合い						目標値	達成	指標－ 計算分類
		年度	29年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	5年度			
		実績値		45% (暫定値)								
	達成度合い		(A': 159%)	(:)	(:)	(:)	(:)					
	年度ごとの目標値		22%	37%	40%	44%	P	P	44%			
把握の方法		出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度12月頃(暫定値は調査年度の翌年度7月頃把握予定) 算出方法:都道府県等からの実績報告により把握										
達成度合いの判定方法		達成度合い(%)=(当該年度実績(見込)値－基準値)／(当該年度目標値－基準値)×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考												
施策(4)		野生鳥獣による被害への対策の推進										
目標①【達成すべき目標】		鳥獣害防止森林区域を設定し、必要な対策を実施										
測定指標	ア 鳥獣害防止森林区域を設定した市町村のうち、シカ被害発生面積が減少した市町村の割合		基準値	実績値・達成度合い						目標値	達成	指標－ 計算分類
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	毎年度			
		実績値		59% (令和2年度)								
	達成度合い		(B: 98%)	(:)	(:)	(:)	(:)					
	年度ごとの目標値		59%	対前年度以上 (令和2年度)	対前年度以上	対前年度以上	対前年度以上	対前年度以上	対前年度以上			
把握の方法		出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度10月頃 算出方法:都道府県からの実績報告により把握。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値と令和元年度実績値との比較により評価を実施。										
達成度合いの判定方法		達成度合い(%)=当該年度実績(見込)値／前年度実績値×100 Aランク:100%以上、Bランク:50%以上100%未満、Cランク:50%未満										
備考		令和2年度の実績値が確定したため、基準値(令和2年度実績値)を修正した。										

施策(5)		適切な間伐(注4)等の推進									
目標①【達成すべき目標】		間伐等を推進									
測定指標		年度	基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類
	ア 令和3年度以降に間伐等を実施した面積	実績値	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	12年度		
		達成度合い		35万ha (暫定値)							
	年度ごとの目標値			0万ha	38万ha	78万ha	120万ha	163万ha	207万ha		
把握の方法		出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度3月頃(暫定値は調査年度の翌年度7～9月頃把握予定) 算出方法:都道府県等からの実績報告により把握									
達成度合いの判定方法		達成度合い(%)=当該年度実績(見込)値／当該年度目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満									
備考											

施策(6)		路網整備の推進									
目標①【達成すべき目標】		路網整備の徹底									
測定指標		年度	基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類
	ア 林道等の整備量	実績値	元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	17年度		
		達成度合い		19.60万 km(暫定 値)							
	年度ごとの目標値			19.49万 km	19.62万 km	19.69万 km	19.76万 km	19.84万 km	19.93万 km		
把握の方法		出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度12月頃(暫定値は調査年度の翌年度6月頃把握予定) 算出方法:都道府県等からの実績報告により把握									
達成度合いの判定方法		達成度合い(%)=(当該年度実績(見込)値－基準値)／(当該年度目標値－基準値)×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満									
備考											

施策(7)	複層林(注5)化と天然生林の保全管理等の推進										
目標①【達成すべき目標】	針広混交林化の取組等を推進										
測定指標	ア 育成単層林のうち、育成複層林へ誘導した森林の割合		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類
		年度	30年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	5年度		
		実績値		2.6% (暫定値)							
		達成度合い		(A: 117%)	(:)	(:)	(:)	(:)		A	S↑－差
	年度ごとの目標値		1.9%	2.5%	2.7%	2.9%	P	P	2.9%		
把握の方法	出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度12月頃(暫定値は調査年度の翌年度7月頃把握予定) 算出方法:都道府県等からの実績報告により把握										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=(当該年度実績(見込)値－基準値)／(当該年度目標値－基準値)×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考											
目標②【達成すべき目標】	公的主体による森林整備を推進										
測定指標	ア 公的な関与による森林整備に係る指標(令和4年度に設定を検討)		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類
		年度	P年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	P年度		
		実績値		－							
		達成度合い		－	(:)	(:)	(:)	(:)		－	P
	年度ごとの目標値		P	－	P	P	P	P	P		
把握の方法	出典:－ 作成時期:－ 算出方法:－										
達成度合いの判定方法	－										
備考											

目標③【達成すべき目標】		花粉症対策に資する苗木の生産や植栽									
測定指標			基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類
		年度	元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	12年度		
	ア 林業用苗木のうち、エリートツリー等の苗木の本数【再掲】	実績値		304万本 (令和2年度)							
	達成度合い		(A:105%)	(:)	(:)	(:)	(:)				
年度ごとの目標値			283万本	303万本 (令和2年度)	359万本	401万本	454万本	518万本	3,000万本	A	S↑－差
把握の方法		出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度3月頃(暫定値は調査年度の翌年度12月頃把握予定) 算出方法:都道府県等からの実績報告により把握。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値を用いて評価を実施。									
達成度合いの判定方法		達成度合い(%)=(当該年度実績(見込)値－基準値)／(当該年度目標値－基準値)×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満									
備考		一部の県からの令和元年度実績報告に誤計上があったことが判明したため、基準値(令和元年度実績値)を修正した。									
施策(8)		カーボンニュートラル実現への貢献									
目標①【達成すべき目標】		適切な間伐の実施、エリートツリー等の再造林を促進、木材の利用の拡大を通じたHWP(伐採木材製品)(注6)による炭素の貯蔵									
測定指標			基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	12年度		
	ア 令和3年度以降に間伐等を実施した面積【再掲】	実績値		35万ha							
	達成度合い		(A:92%)	(:)	(:)	(:)	(:)				
年度ごとの目標値			0万ha	38万ha	78万ha	120万ha	163万ha	207万ha	450万ha	A	S↑－直
把握の方法		出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度3月頃(暫定値は調査年度の翌年度7～9月頃把握予定) 算出方法:都道府県等からの実績報告により把握									
達成度合いの判定方法		達成度合い(%)=当該年度実績(見込)値／当該年度目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満									
備考											

測定指標	イ 林業用苗木のうち、エリートツリー等の苗木の本数【再掲】	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類
		年度	元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	12年度		
		実績値		304万本 (令和2年度)							
		達成度合い		(A: 105%)	(:)	(:)	(:)	(:)			
年度ごとの目標値		283万本	303万本 (令和2年度)	359万本	401万本	454万本	518万本	3,000万本	A	S↑－差	
把握の方法		出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度3月頃(暫定値は調査年度の翌年度12月頃把握予定) 算出方法:都道府県からの実績報告。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値を用いて評価を実施。									
達成度合いの判定方法		達成度合い(%)=(当該年度実績(見込)値－基準値)／(当該年度目標値－基準値)×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満									
備考		一部の県からの令和元年度実績報告に誤計上があったことが判明したため、基準値(令和元年度実績値)を修正した。									
測定指標	ウ 令和3年度以降に人工造林を実施した面積【再掲】	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	12年度		
		実績値		3.3万ha (暫定値)							
		達成度合い		(A: 110%)	(:)	(:)	(:)	(:)			
年度ごとの目標値		0万ha	3万ha	8万ha	13万ha	19万ha	26万ha	70万ha	A	S↑－差	
把握の方法		出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度12月頃(暫定値は調査年度の翌年度7月頃把握予定) 算出方法:都道府県等からの実績報告により把握									
達成度合いの判定方法		達成度合い(%)=(当該年度実績(見込)値－基準値)／(当該年度目標値－基準値)×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満									
備考											
測定指標	エ 国産材の供給量	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類
		年度	元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度		
		実績値		3,100万 m3 (令和2年度)							
		達成度合い		(A:97%)	(:)	(:)	(:)	(:)			
年度ごとの目標値		3,100万 m3	3,200万 m3 (令和2年度)	3,400万 m3	3,600万 m3	3,800万 m3	4,000万 m3	4,000万 m3	A	F↑－直	
把握の方法		出典:木材需給報告書 作成時期:調査年度の翌年度9月末頃 算出方法:木材需給報告書のデータにより把握。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値を用いて評価を実施。									
達成度合いの判定方法		達成度合い(%)=当該年度の実績(見込)値／当該年度の目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満									
備考											

施策(9)		国土の保全等の推進									
目標①【達成すべき目標】		保安林(注7)を計画的に指定									
測定指標	ア 保安林の面積		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類
		年度	30年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	15年度		
		実績値		1,226万 ha							
		達成度合い		(A:99%)	(:)	(:)	(:)	(:)		A	S↑－直
	年度ごとの目標値		1,221万 ha	1,237万 ha	1,243万 ha	1,248万 ha	1,253万 ha	1,259万 ha	1,301万 ha		
把握の方法		出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度7月頃 算出方法:都道府県からの実績報告により把握									
達成度合いの 判定方法		達成度合い(%)=当該年度の実績(見込)値/当該年度の目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満									
備考											
目標②【達成すべき目標】		「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」等に基づき治山対策を推進、海岸防災林等の整備強化									
測定指標	ア 治山対策を実施したことにより 周辺の森林の山地災害防止 機能等が確保される集落の数		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類
		年度	30年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	5年度		
		実績値		57.2千 集落 (暫定 値)							
		達成度合い		(B:71%)	(:)	(:)	(:)	(:)		B	S↑－差
	年度ごとの目標値		56.2千 集落	57.6千 集落	58.1千 集落	58.6千 集落	P	P	58.6千 集落		
把握の方法		出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度3月頃(暫定値は調査年度の翌年度6月頃把握予定) 算出方法:都道府県からの実績報告により把握									
達成度合いの 判定方法		達成度合い(%)=(当該年度実績(見込)値－基準値)/(当該年度目標値－基準値)×100 A'ランク:100%超、Aランク:80%以上100%未満、Bランク:50%以上80%未満、Cランク:50%未満									
備考											
測定指標	イ 適切に保全されている海岸 防災林等の割合		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類
		年度	30年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	5年度		
		実績値		98% (暫定 値)							
		達成度合い		(A:98%)	(:)	(:)	(:)	(:)		A	S↑－他
	年度ごとの目標値		96%	98%	99%	100%	P	P	100%		
把握の方法		出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度3月頃(暫定値は調査年度の翌年度6月頃把握予定) 算出方法:都道府県からの実績報告により把握									
達成度合いの 判定方法		達成度合い(%)=(海岸防災林等の延長－(機能が低下した海岸防災林等の延長－当該年度までに治山事業により機能の回復した海岸防 災林等の延長))/ (海岸防災林等の延長)×100 Aランク:90%以上、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満									
備考											

目標③【達成すべき目標】		松くい虫(注8)対策等については、防除を引き続き実施、対策については被害先端地に重点化									
測定指標	ア 保全すべき松林(注9)の被害率が1%未満の「微害」に抑えられている都府県の割合		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類
		年度	元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度		
		実績値		85%							
		達成度合い		(A:94%)	(:)	(:)	(:)	(:)			
	年度ごとの目標値		85%	90%	93%	95%	98%	100%	100%		
把握の方法		出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度8月頃 算出方法:都道府県からの実績報告により把握。									
達成度合いの判定方法		実績値の算定に当たっては、これまで松くい虫被害の発生していない北海道を除く46都府県の割合により算定する。 達成度合い(%)=当年度実績(見込)値／当年度目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満									
備考											
測定指標	イ 高緯度・高標高の被害先端地域が存する都府県の保全すべき松林の被害率に対する全国の保全すべき松林における被害率の割合		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	毎年度		
		実績値		91%							
		達成度合い		(A:91%)	(:)	(:)	(:)	(:)			
	年度ごとの目標値		100%	100%以上	100%以上	100%以上	100%以上	100%以上	100%以上		
把握の方法		出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度8月頃 算出方法:都道府県からの実績報告により把握。									
達成度合いの判定方法		被害先端地域が存する都府県の保全松林の被害率を、当該年度の全国の保全松林における被害率以下に減少させる。 達成度合い(%)=(全国の保全松林の被害率)／(先端地域が存する都府県の保全松林被害率)×100 Aランク:90%以上、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満									
備考		令和2年度の実績値が確定したため、基準値(令和2年度実績値)を修正した。									
施策(10)		新たな山村価値の創造									
目標①【達成すべき目標】		未利用材の熱利用などを推進									
測定指標	ア 国産の燃料材利用量		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類
		年度	元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度		
		実績値		893万 m3 (令和2年度)							
		達成度合い		(A:128%)	(:)	(:)	(:)	(:)			
	年度ごとの目標値		693万 m3	700万 m3 (令和2年度)	740万 m3	760万 m3	780万 m3	800万 m3	800万 m3		
把握の方法		出典:木材需給報告書 作成時期:調査年度の12月末頃 算出方法:木材需給報告書のデータにより把握。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値を用いて評価を実施。									
達成度合いの判定方法		達成度合い(%)=当該年度実績(見込)値／当該年度目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満									
備考											

目標②【達成すべき目標】		「緑の雇用」事業（注10）によるトライアル雇用等を契機とした移住・定住の促進									
測定指標	ア 新規就業者（林業作業士（フォレストワーカー）（注11）1年目研修生）の就業3年後の定着率	年度	基準値 元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	目標値 7年度	達成 A	指標－ 計算分類 F↑一直
		実績値		72%							
		達成度合い		(A: 96%)	(:)	(:)	(:)	(:)			
	年度ごとの目標値		73%	75%	76%	78%	79%	80%	80%		
把握の方法		出典：林野庁調べ 作成時期：調査年度の7月頃 算出方法：「緑の雇用」新規就業者育成推進事業の実績により把握									
達成度合いの判定方法		達成度合い(%)＝当該年度実績（見込）値／当該年度目標値×100 A'ランク：150%超、Aランク：90%以上150%以下、Bランク：50%以上90%未満、Cランク：50%未満									
備考											
目標③【達成すべき目標】		「森林サービス産業」（注12）の推進									
測定指標	ア 「森林サービス産業」に取り組む地域数	年度	基準値 元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	目標値 7年度	達成 A	指標－ 計算分類 S↑一差
		実績値		21地域							
		達成度合い		(A: 105%)	(:)	(:)	(:)	(:)			
	年度ごとの目標値		0地域	20地域	30地域	35地域	40地域	45地域	45地域		
把握の方法		出典：林野庁調べ 作成時期：調査年度の翌年度5月頃 算出方法：都道府県への聞き取りにより把握									
達成度合いの判定方法		達成度合い(%)＝（当該年度実績（見込）値－基準値）／（当該年度目標値－基準値）×100 A'ランク：150%超、Aランク：90%以上150%以下、Bランク：50%以上90%未満、Cランク：50%未満									
備考											

施策(11)	国民参加の森林づくり等の推進										
目標①【達成すべき目標】	多様な主体による植樹など森林づくり活動の促進										
測定指標	ア フォレストサポーターズ(注13)の登録数		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度		
		実績値		7.0万件							
		達成度合い		(A:100%)	(:)	(:)	(:)	(:)			
	年度ごとの目標値		6.9万件	7.0万件	7.0万件	7.1万件	7.1万件	7.2万件	7.2万件	A	S↑－直
把握の方法	出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度4月 算出方法:制度運営団体の情報により把握										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=当該年度実績(見込)値／当該年度目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考											
測定指標	イ 森林ボランティア団体数		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度		
		実績値		4,474団体							
		達成度合い		(A:99%)	(:)	(:)	(:)	(:)			
	年度ごとの目標値		4,502団体	4,512団体	4,522団体	4,542団体	4,562団体	4,582団体	4,582団体	A	S↑－直
把握の方法	出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度4月 算出方法:都道府県からの実績報告により把握										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=当該年度実績(見込)値／当該年度目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考											
測定指標	ウ 民有林における企業による森林づくり活動の実施箇所数		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類
		年度	元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度		
		実績値		1,118箇所(令和2年度)							
		達成度合い		(A:101%)	(:)	(:)	(:)	(:)			
	年度ごとの目標値		1,101箇所	1,111箇所(令和2年度)	1,131箇所	1,144箇所	1,157箇所	1,170箇所	1,170箇所	A	S↑－直
把握の方法	出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度9月頃 算出方法:都道府県からの実績報告により把握。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値を用いて評価を実施。										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=当該年度実績(見込)値／当該年度目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考											

施策(12)		国際的な協調及び貢献									
目標①【達成すべき目標】		開発途上地域における森林減少・劣化の抑制、山地災害の防止、違法伐採対策等に貢献									
測定指標	ア 持続可能な森林経営(注14)を推進する民間団体等による国際協力プロジェクト数		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度		
		実績値		99件							
		達成度合い		(A: 108%)	(:)	(:)	(:)	(:)			
	年度ごとの目標値		90件	92件	94件	96件	97件	99件	99件	A	S↑－直
把握の方法		出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度5月 算出方法:JICA及び公益法人等からの実績報告により把握									
達成度合いの判定方法		達成度合い(%)=当該年度実績(見込)値／当該年度目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満									
備考											

評価結果	目標達成度合いの測定結果	(各行政機関共通区分)	③相当程度進展あり
		(判断根拠) 政策分野⑨「森林の有する多面的機能の発揮」については、令和3年度に目標を設定している測定指標数25個のうち、A'が1個、Aが21個、Bが3個、Cが0個となっており、A'、A及びB(ただし、前年度の実績値を下回った指標を除く)が半数以上、かつ、Cが4分の1以下であることから、令和4年度農林水産省政策評価実施計画に基づき、「③相当程度進展あり」と判定した。	
	測定指標についての要因分析 (達成度合いが悪い場合等) 【施策の分析】	【(3)③(イ)】人工造林面積のうち、造林の省力化や低コスト化を行った面積の割合 人工造林面積のうち、造林の省力化や低コスト化を行った面積の割合については、令和3年度の実績値が45%(暫定値)で、達成度合いが159%で「A'」となった。このことに係る要因分析は以下のとおり。 ① 施策(政策分野)及び測定指標をめぐる社会の動向 我が国の森林は、戦後に造成された人工林が全体の約4割を占め、その多くが資源として利用可能な段階を迎えている。このため、森林資源の充実と公益的機能の発揮を図りながら循環的に利用していく必要がある。 特に、近年、木材需要が増えてきている中で、主伐後の確実な再造林が重要である一方、再造林コストの約7割が初期費用であり、収益が見込めず再造林を実施しないことが多く、再造林が進まないことから、再造林費用の低減のための取組を進めることが不可欠となっている。 このため、当該指標においては、「造林の省力化や低コスト化を行った面積」として、植付作業の効率化や労働負荷の軽減により造林コストの低減が期待されるコンテナ苗による植栽面積や低密度での植栽面積を計上することとしている。 ② 測定指標の目標達成に向けた主な取組 苗木生産事業者に対し、コンテナ苗生産施設の整備に対する補助のほか、森林所有者等に対しコンテナ苗の植栽や伐採・造林の一貫作業の導入への補助を実施した。 ③ 目標の達成状況に影響したと考えられる要因の分析 ②のとおり、苗木生産事業者に対し補助を行った結果、コンテナ苗生産事業者が361社(H29)から430社(R2)に増加したことにより、令和3年度は、測定指標の基準年である平成29年度(1,002万本)と比べ、コンテナ苗の生産量が2,289万本と2倍超に増加し、それに伴い流通量、利用量が増加した。また、低コスト造林技術の普及の結果、森林所有者等が造林を行う際の選択の幅が広がってきた。 このように森林所有者等が低コスト造林に取り組む環境が整ってきたことで、令和3年度は、人工造林面積3.3万ha(暫定値)のうち、造林の省力化や低コスト化を行った面積の割合が45%(1.5万ha(暫定値))となり、達成度合いがA'になった要因と考えている。	
	次期目標等への反映の方向性	【(3)③(イ)】人工造林面積のうち、造林の省力化や低コスト化を行った面積の割合 本格的な主伐期を迎え、今後も主伐・再造林面積の増加が見込まれるところであり、再造林を確実に実施するためには、低コスト造林への取組が不可欠であることから、本測定指標の効果を測りつつ、森林整備事業等による再造林への低コスト化に向けた対策を推進していく。	
学識経験を有する者の知見の活用		-	
政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報		-	

評価結果の政策への 反映状況 (主なもの)	予算	令和5年度予算概算要求において、以下について要求を行う。 ・主伐・再造林面積のさらなる増加が見込まれるなか、再造林等の省力化・低コスト化を推進するため、「森林整備事業」要求する。併せて、一貫作業等による造林作業の低コスト化を支援する「林業イノベーション推進対策」を要求する。 ・コンテナ苗の需要増加が見込まれるなか、コンテナ苗を安定的に供給するため、引き続きコンテナ苗を効率的に生産する事業者に対して、コンテナ苗生産基盤施設等の整備を支援する「林業・木材産業循環成長対策」を要求する。
	税制	—
	その他 (法令、組織、定員等)	—

担当部局名	林野庁 【林野庁計画課/森林利用課/整備課/治山課/研究指導課/経営課/木材産業課/経営企画課/業務課/企画課】	政策評価実施 時期	令和4年8月
-------	---	--------------	--------

参 考

用語解説

注1 齢級	齢級は、林齢を5年の幅でくくった単位。苗木を植栽した年を1年生として、1～5年生を「1 齢級」と数える。
注2 森林クラウド	これまで各ユーザ(都道府県、市町村、森林組合等)で管理していた森林情報を、クラウド上で一元的に管理するシステム。また、GISの機能を持ち、属性情報や地図情報を管理する機能を持つ。
注3 エリートツリー	国立研究開発法人森林研究・整備機構により、成長や材質等の形質が良い精英樹同士の人工交配等から得られた個体の中から選抜された、成長等がより優れた精英樹のこと。
注4 間伐	育成段階にある森林において、樹木の混み具合に応じて育成する樹木の一部を伐採(間引き)し、残存木の成長を促進する作業。この作業により生産された丸太が間伐材。一般に、除伐後から、主伐までの間に育成目的に応じて間断的に実施。
注5 複層林化	針葉樹一斉人工林を帯状、群状等に択伐し、その跡地に人工更新等により複数の樹冠層を有する森林を造成すること。
注6 HWP(伐採木材製品)	「Harvested Wood Products」の略。パリ協定において、搬出後の木材における炭素量の変化を温室効果ガス吸収量又は排出量として計上することができる。
注7 保安林	森林のうち、水源のかん養、土砂の流出防備、土砂の崩壊防備などの公益的機能の発揮を目的として、農林水産大臣又は都道府県知事により指定された森林。
注8 松くい虫	「松くい虫」という名の虫は存在せず、松くい虫被害の正式名称は「マツ材線虫病」である。松くい虫被害は、体長約1mmの外来種である「マツノザイセンチュウ」が在来種であるマツノマダラカミキリ等に運ばれてマツ類の樹体内に侵入することによりマツ類を枯死させる現象であり、これらを総称して「松くい虫」と呼んでいる。
注9 保全すべき松林	保安林や景勝地、せき悪地の松林など、公益的機能が高く将来的に保全する必要がある松林であって、松以外の樹種では当該機能を確保することが困難な松林として都道府県知事が指定する高度公益機能森林及び、松林としての機能を確保しつつ、高度公益機能森林への被害の拡大を防止する措置を実施することが適当な松林として市町村長が指定する地区保全森林。
注10 「緑の雇用」事業	未経験者でも林業に就き必要な技術を学ぶため、林業経営体採用された人に対し講習や研修を行うことでキャリアアップを支援する制度。研修年次に応じて研修の内容をステップアップさせ、さまざまな技能を身につけられるよう体系的な研修プログラムが用意されている。
注11 林業作業士(フォレストワーカー)	新規就業者を対象とした安全かつ効率的な作業に必要な知識・技術・技能を習得するための3年間の体系的な研修を修了し登録された者。
注12 「森林サービス産業」	山村の活性化に向けた「関係人口」の創出・拡大のため、森林空間を健康、観光、教育等の多様な分野で活用する新たなサービス産業。
注13 フォレストサポーターズ	個人や企業等が「フォレスト・サポーター」として運営事務局に登録を行い、日常の生活や業務の中で自発的に森林整備や木材利用に取り組む仕組み。
注14 持続可能な森林経営	動的で進化する概念として、全てのタイプの森林の経済、社会、環境的価値を現在及び将来世代の便益のために維持し、高めることを目的に森林を管理し又は経営すること。

※ 測定指標の詳細については令和3年度事前分析表、政策手段については令和4年度事前分析表をご覧ください。